

第2回研究推進体「ストレス」フォーラム

細胞環境とシグナル伝達 ～疾患へのアプローチ～

日時: 2010年9月8日(水) 17:30 - 20:00

場所: 山口大学医学部基礎研究棟1階カンファレンスルーム

司会: 徳田 信子(器官解剖学)、本田 健(薬理学)

- 1 脂質代謝物による表皮細胞のシグナル制御とFABP5分子の役割
安達 泰弘(器官解剖学)
- 2 インスリン様成長因子由来ペプチドによる皮膚創傷治癒促進作用
松浦 健二(分子薬理学)
- 3 口腔癌治療におけるフッ化ピリミジン系抗癌剤の有用性に関する
基礎的検討
原田 耕志(歯科口腔外科学)
- 4 血管平滑筋異常収縮のシグナル伝達機構における、コレステロール
および膜ラフトの役割の解明
岸 博子(生体機能分子制御学)
- 5 心筋収縮と細胞内脱リン酸化制御
池田 安宏(器官病態内科学)

内外の環境変化に対して、細胞は恒常性を保つための様々な維持機構をもち、その制御機構の破綻は、多くの病態に関わることが知られてます。今回、上皮細胞や筋細胞に着目し、細胞内外の環境がシグナル伝達におよぼす影響とその破綻が招く病態について関連研究を紹介し、議論します。

興味のある研究者、大学院生、学部学生の皆さま、是非ご参加ください。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患のための戦略」

連絡先 器官解剖学(2202)